

7月7日(火)

主は唯一無二のお方

聖書朗読 箴言 3:5~6

万軍の神、主。だれが、あなたのように力がありましょう。主よ。あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。
詩篇 89:8

生涯で「この人は信頼できる」と思う人に出会うことがあっても、完全に信頼することはできないものです。人は皆、欠点があり、失敗したり、人を失望させたりして、なりたい自分にはなかなか出来ません。私たちが完全に信頼できるのは神様だけです。私たちが失望させたり、裏切ったりすることがないのは、神様だけなのです。

私たちの信仰、希望、信頼を、人間という限界のあるものではなく、主に置くとき、人は互いに平和を保ち、また創造主のみこころにかなうように、より良く生きる備えができます。

聖書はこのような生き方を私たちに求めています。それは『あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。』(ローマ 12:18)という生き方です。自分の不完全さを自覚し、唯一完全なお方から御恵みを受けることによって、私たちは理解と恵みに根ざした、より深い繋がりへと心を開くことができます。

神様を心から信頼し、周りの人たちに優しく愛を注ぎ、そして主のようなお方は他にいないという真理に安らぎを見出しましょう。

讃美歌 291 主にまかせよ

祈り 主よ。私たちは自分がただの人間であることを忘れがちです。あなたが求めておられるような生き方ができないとき、周りの人たちを愛し、また主の御恵みを受けることができるよう助けてください。あなたのみをお頼りいたします。イエス様のお名前において。アーメン。



コネチカット州 マンチェスター / ベス・スタッフォード

7月8日(水)

ことばはとるにたらない

聖書朗読 伝道者の書 5:1~7

神の前では、軽々しく、心をあせてことばを出すな。神は天におられ、あなたは地にいるからだ。だから、ことばを少なくせよ。
伝 5:2

神様の御前に立つときは、心構えが重要であることを、伝道者の書は思い起こさせます。言うのは簡単ですし、約束するのも簡単です。でも、神様はむなしなことばには関心がありません。話すよりも聞くようにと、神様は私たちに命じられています。1996年出版の現代英語訳聖書(NLT)では、『ことばはとるにたらない』と率直に書いています。何かをするときは、準備ができるまで、それを人に言わない方がいいと、私はよく思います。果たせないかもしれない偽りの期待を抱かせたくはありませんから。

ソロモン王は、神様から離れた人生はむなしさを悟りましたが、では、彼の結論は何でしょうか。私たちの目的は、周りの人たちや自分自身を感心させることではなく、神様を畏れ敬い、神様を信頼し、神様に従うことです。『主を恐れることは知恵の初め』(箴言 9:10)なのです。そして、伝道者の書は、『神を恐れよ。神の命令を守れ。』(伝 12:13)という明確な教えで締めくくられています。ことばを口に出すのではなく、耳を傾けることが、神様に対する最も誠実な応えのときがあります。

周りの人に対しては、自分を弁護するような言葉でなく、謙虚な言葉を選んだ方が良いと思います。ある教授はこう言いました。「最後のひと言は言わなくていいという決まりを私は実践しています」と。ゆっくりと話すこと、慎重に約束すること、そして心から神様に従うことを、神様が教えてくださいますように。

讃美歌 339 君なるイエスよ けがれし我を

祈り 主よ。ことばと行ないを通して、あなたを畏れ敬うことを教えてください。へりくだった心、耳を傾ける心、そして真実と愛に満ちたことばだけを語る知恵をお与えください。イエス様のお名前において。アーメン。

アーカンソー州 フェイエットビル / L スコット・ゲージ

7月9日(木)

神の人は何度でも起き上がる

聖書朗読 イザヤ書 53:3~12

正しい者は七たび倒れても、また起き上がるからだ。悪者はつまづいて滅びる。
箴言 24:16

“才能ある者を抑えておくことはできない”という言葉をよく耳にしますが、聖書はこの言葉を少し修正しています。神様の子どもたちはどんなに落ちぶれても、神様がつねに、また起き上がる力を与えてくださいます。ヨセフがその良い例です。兄たちから憎まれていたヨセフは、穴に投げ込まれ、奴隷として売られ、エジプトに連れて行かれました。(創世記 37:23~28)しかし、神様は、ヨセフを立ち上がらせ、『エジプト全土の統治者』とされました。(創世記 45:7~8)

“神様にお仕えする者を抑えておくことはできない”という言葉をもよく表わしているお方がイエス様です。言葉による辱めと身体的虐待を受け、イエス様は人類史上最も残酷な死を遂げられました。しかし、神様は御子を死からよみがえらせ、崇高な名と地位を与えられました。自分を神様にお捧げして、神様を第一として生きるとき、人生の試練が私たちを打ちのめすこともあるでしょう。でも神様は再び立ち上がらせてくださいます。神様にお仕えする者は何ものにも打ち倒されないのです。

キリストの愛が人の人生に入り込むとき

それはこの世が知る限りの最も大いなる高揚と尊い力となる

—ハワード・ギネス*

(*編注:アイルランドのギネス・ビール創業家の出身であり、世界的な学生伝道や大学でのキリスト教宣教活動に多大な足跡を残した。1903-1979)

讃美歌 162 あまつみつかいよ

祈り 貴いお父様。人生に打ちのめされ膝をついたとき、立ち上がらせてくれるあなたの神聖な力をお頼りすることができますように助けてください。イエス様のお名前において。アーメン。

テキサス州 テレル / エドワード J・ロビンソン

7月10日(金)

神様の召し

聖書朗読 ヨナ書 1:1~10

『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。
マタイ 5:43~44

神様はヨナにニネベに行くようにお命じになりましたが、ヨナは神様の御顔を避けて逃げ出しました。ヨナは、敵視するニネベの人たちに悔い改めと救いという神様のメッセージを伝えるどころか、神様から逃げ出して、船に乗り込み、ニネベとは逆の方向に向かいました。ヨナはニネベに関心もなければ、行ってみたいとも思わず、愛するなど論外でした。

今からおよそ80年前のことです。新婚のジョー夫婦は二人ともまだ20歳でしたが、キリストを最も必要としている場所に宣教に行こうと決め、どこに行こうかと考えた結果、戦争で荒廃した日本の人々こそ神様の愛を必要としていると決心しました。神様がジョーを召し、ジョーはそれに応えました。ジョー夫婦は祈り、日本語を学びました。古い蒸気船に乗って2週間、日本に到着しました。その後、15年間、ジョー夫婦は、戦争中、米国の敵であった日本の人々を愛し、仕え、教えました。戦争で荒廃した多くの日本人の心が開かれ福音へと導かれました。15年の間に、30以上の教会が建てられ、キリスト教の学校、チルドレンズホーム、3つの青少年キャンプが設立され、三千人以上の人々が主への信仰を告白しました。

あなたの場合はどうですか。神様は誰に仕えるようにとあなたを召していますか。神様は今も変わらずご自身の民を召しておられます。

讃美歌 389 敵を愛せよとの

祈り お父様。私たちの周りにいる、福音のメッセージを必要としている人々に目を開かせてください。敵も含めて、すべての人々を愛しなさいという神様の呼びかけにお応えすることができますよう、お祈りします。イエス様のお名前において。アーメン。

オクラホマ州、エドモンド / サリー・シャンク

7月11日(土)

良いときも悪いときも

聖書朗読 ハバクク書 3:8~19

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

ピリピ 4:4

その紳士は立ち上がり、集まった人々を代表して祈りを捧げました。心から感謝を込めて祈り、「主よ、感謝いたします」と言いました。さらに「私たちに強さをもたらす健康、私たちを支えてくれる仕事、そして私たちを愛してくれる家族など、あなたの豊かな御恵みに感謝します」とお祈りしました。

でも、もし健康状態が思わしくなく、仕事がなく、家族仲がうまくいってなかったら、どうでしょうか。人生が順調なときに感謝の気持ちを持つのは容易かもしれませんが、そうでない場合はどうでしょうか。

ヤコブは手紙の冒頭に『私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。』(ヤコブ 1:2)と書いています。またパウロはこう述べています『私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。』(ピリピ 4:11b)信仰が真実かどうかを試す試金石は、光の見えない悲運のときにあっても、平安と満足、そして喜びを見出すことができるかどうかです。

預言者ハバククは、ユダ王国史上、絶望的な状況にあった時代に、預言書を記しましたが、『そのとき、いちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木は実をみおかせず、…しかし、私は主にあって喜び勇み、私の救いの神にあって喜ぼう。』(ハバクク 3:17~18より)と、信仰と主への忠誠を雄弁に語る言葉でその書を締めくくっています。

ハバククが古代に書いた言葉は現代の私たちにとって素晴らしい模範です。

讃美歌 533 くしき主の光

祈り 親愛なる神様。私たちを愛してくださる神様であるあなたを讃美します。良いときも悪いときも、堅く信仰に立つことができるように助けてください。イエス様のお名前において。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ケヴィン B・レイチェル

7月12日(日)

私でも救われる？

聖書朗読 マタイの福音書 5:1~12

『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』

ルカ 18:13

イエス様に従う決意をする以前のその人の行ないを知っていて、その人が神様に人生を捧げたとき、ものすごく驚いたことはありますか。神様はその人をお救いくださるだろうか、あるいは自分のことを赦してくださるだろうかと疑ったことはありますか。イエス様が山上の垂訓で語られた八つの幸福の教えは、一般的に、私たちが努力して獲得すべき態度のリストとされていますが、それ以上のものであったとしたら、どうでしょうか。山上の垂訓の教えを聞くためにイエス様の周りに集まった人々は、心の貧しい者が天の御国の一員になれると聞いて、大変驚いたかもしれません。

天の御国は、霊的に豊かな者、心の貧しくない者のために用意されているのではないのですか。悲しむ者が幸いですって？ 神の民は、悲しみではなく、喜びと幸福に満ちているべきではないの、と人々は考えたかもしれません。八つの幸福のリストが同じように続きます。

イエス様は山上の垂訓の中で、神様がお救いくださる者のタイプを示されただけではありません。世間で軽んじられ、さげすまれている人たちを例に挙げることで、神様はどんな人でもお救いくださることを教えられたのです。神様は救ってくださいます。霊的に貧しい人でも、嘆き悲しむべき罪が多過ぎる人でも、彼らも、私たちも、そしてあなたも！

讃美歌 308 いのりは口より

祈り 親愛なる神様。あなたの御恵みといつくしみに感謝します。私たちはあなたを裏切り、あなたに罪を犯しました。赦して下さりありがとうございます。私たちには赦しが必要です。イエス様のお名前において。アーメン。



テネシー州 マイラン / チャド・エゼル